



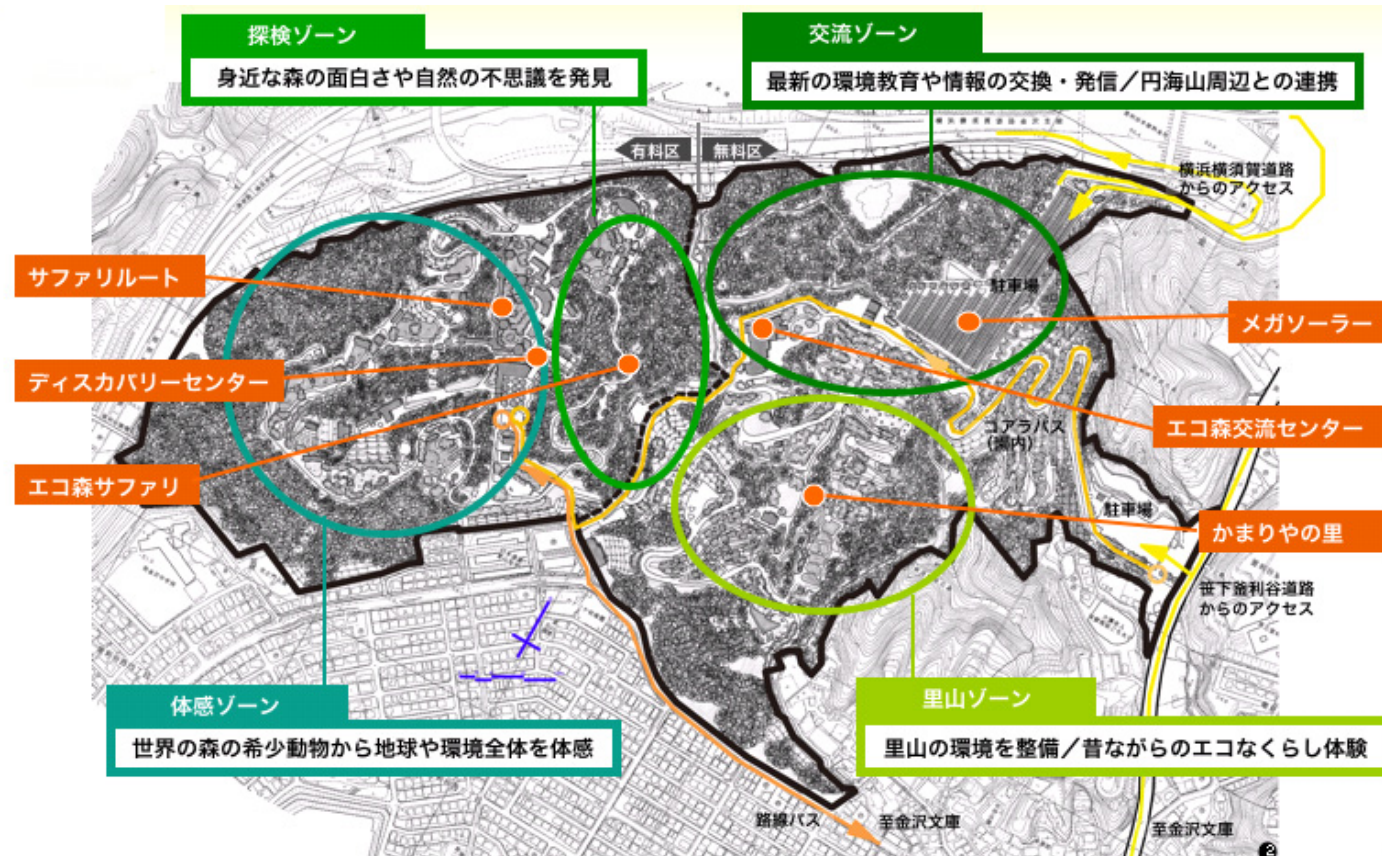
金沢動物園再生（エコ森）基本計画概要

- 「森とエコ」をテーマとして、脱温暖化、横浜みどりアップ事業、生物多様性保全事業と連動して、環境施策の展開拠点とすると共に地球規模の環境課題に取り組みます。
- ウォーキングスルー式の生態展示、動物の機能や特性を体感できる体感型展示、地中・水域生物の生態展示などにより、環境教育のフィールドとして整備します。

基本計画案策定の経緯

金沢動物園は、開園から 27 年が経過し、「動物園のあり方懇談会」などの提言を受け、再整備の検討を進めてきました。

H16.2	包括外部監査 入園者数の減少に歯止めがみられない動物園の統合を求める。
H17.4	動物園のあり方懇談会 コンセプトの転換、再投資による魅力向上、または順次閉園。
H19.11	金沢動物園再生構想案策定 動物園改革第三者評価委員会 構想案は、環境教育や地域の自然保全などの要素を取り入れた相応しい施設になっている。
	市会常任委員会 考え方はよい。
H19.12	再生基本計画策定に向けた検討を開始。



具体的な取組

これまでにない動物園の魅力づくりに挑戦!

■ エコ森サファリ

身近な森の面白さや不思議を発見できる探検ゾーンとして、日本の動物を発見・観察できるウォーキングスルー式の森の生態展示を行います

エコ森サファリ・新たな魅力誕生!

探検小旅行を満喫
日本の動物を発見・観察できるウォーキングスルー式の森の生態展示
■自由に探検
■探検ツアープログラムも充実
■エコツアーのコースにも活用
見られる動物: タヌキ、ノウサギ、リス、フクロウ等

いろんなしかけがいっぱい
■動物のすみかをのぞく
■リアルタイムの映像
■観察小屋
■展望台等

野生動物も観察できる森
■野生動物が集まり観察しやすい環境づくり
→生物多様性保全にも貢献

事業効果

■ 脱温暖化・みどりアップ・生物多様性保全の推進

温室効果ガス 100%削減
市民・企業によるCO-DO30の実践
市民によるみどりアップ活動の推進
生物多様性保存に対する理解の深まり
園内の生物多様性の増加

■ 利用者数の増加

動物園入園者 32万人→50万人(18万人増加)
公園利用者 59万人→93万人(34万人増加)

事業スケジュール

H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
全体計画	基本設計 ・実施設計	← 整備 →				

■ メガソーラー

高速側駐車場にメガソーラーを整備します。また、その他様々な再生可能エネルギーを導入し、園内のゼロカーボンを目指します。

■ エコ森交流センター

ののほな館をリニューアルし、脱温暖化・みどりアップ・生物多様性保全を推進していくための拠点として、市民や団体活動をサポートする施設とします。建物や設備に様々な再生可能エネルギーを活用し、環境ショーケースとします。また、地産池消のオーガニックメニューを提供する絶景レストランを整備します。

■ かまりやの里

伝統的な里山の環境を整備し、田んぼ・畑・草地・森・水辺等で多様な生物が生息できる環境を市民協働により再生し、維持管理を行います。

■ サファリルート

雨天対策として、屋根付き観覧ルートとショートカット動線などにより園内移動の利便性を高めます。また、世界の森の希少動物から地球への理解を深めることができる体感ゾーンでは、体験的な設備や遊具で楽しみながら、動物の機能や特性を学習できる展示を行います。

■ ディスカバリーセンター

学校や幼稚園の団体の受入れができるレクチャールームや地中生物、水域生物等を生態展示し、生物多様性を観察・学習ができる施設を整備します。